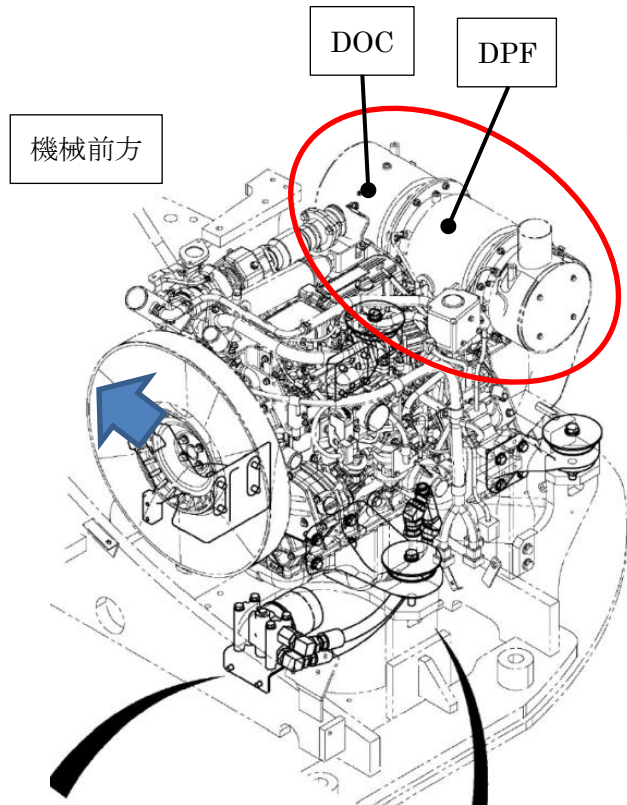


改善箇所説明図



不具合発生箇所

酸化触媒（DOC）とすすフィルタ（DPF）で構成される排ガス後処理装置では、排気中に燃料を供給し、DOC を通過させることで燃料を酸化させて排気温度を上げ、DPF で捕集したすすを燃焼させる機能を有している。

長時間の低負荷運転が続いた場合、DOC 前面にすすが堆積することにより燃料が酸化せず、DPF 内ですすと共に燃焼して想定以上の高温となる。この状態になると、DPF 保護のため、すすの燃焼が中断される。

また、過渡時には吸入空気量に対して燃料が多く噴射されることにより、想定を超えるすすが発生し、そのままの状態で使用を続けると、DPF が目詰まりする。

この状態になると、機械の制御により稼働制限がかかる。

改善内容

対象全車両について、制御ソフトおよびコントロールバルブのスプールを対策品に変更する。

識別

キャブ内に DPF に関する説明のラベルを貼付する。

